

日頃より温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。さて、国際情勢に目を向けますとイラン、米国、イスラエルをめぐる動向はホルムズ海峡の緊張を招き、世界の安全保障のみならず、原油価格の高騰や物流コストの上昇を通じて、我が国の経済や地域経済、市民生活にも影響を及ぼしかねない状況です。また、イランを始め戦時下にある地域において不安と緊張の中で日々を過ごされておられる方々、特に子どもや高齢者、心身に不調を抱えている方々に思いを致さずにはられません。対話による平和的な解決が1日も早く実現する事を強く願うものです。



1. 5歳児健診について

令和8年3月度 一般通告質問 より

全国的に特別支援が必要な子どもが増加傾向にあります。小学校入学前に就学前健診が行われていますがこの時点で発達の特徴を指摘された場合、短期間での対応が必要となり、親子共に心理的、身体的負担が大きく、不安を抱えたまま就学を迎えるという事が危惧されます。

5歳児健診により、余裕を持った対処が出来る事が期待されることから、令和6年6月議会議会行政一般質問において実施を求めました。その際、市長より

「3歳児健診では気づきにくい子どもの特性を早期に発見し、そのお子さんに合わせた適切な支援につなげる事で多動など心配される行動の改善や集団生活への適応がスムーズになる事が期待できるため、準備を進めたい。」との答弁がありました。

そこで今回、実施に向けての現状と課題、見解を再度、質問致しました。

答弁 既に5歳児健診を実施している自治体の先行事例を研究し国や県実施の研修の受講、健診にあたっている医師への聞き取りなどを行い、実施に向け専門職や関係機関との協議を行う準備を進めています。5歳児健診は大変意味のあるものと認識しています。幼児から就学児まで切れ目の無い支援に位置付け、実施に向け医師や専門職の確保などの課題解決に関係機関との調整を進めて参ります。



2. RSウイルス感染症予防について

令和7年9月議会一般質問においてRSウイルス感染症について市民の皆様への周知徹底を求めましたが、まだまだ周知不足であると感じ、再度、質問致しました。

本年4月より妊婦の方へのRSウイルスワクチンの予防接種が定期接種の対象となりました。

RSウイルスは小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで生後1歳までに50%以上が、**2歳までにほぼ100%の乳幼児が感染する**とされています。

初めて感染した乳幼児の30%が呼吸困難や肺炎を起こし、**特に生後6ヶ月未満の新生児では突然死につながる無呼吸発作を起こすことがあります。**感染経路は接触感染と飛沫感染です。

予防には妊娠28週から36週6日迄の妊婦にワクチンを接種することで母体から胎児へ抗体が移行する「母子免疫」を獲得出来ます。本年4月より妊婦の方へのRSウイルスワクチンの予防接種が定期接種になり対象者には市より**無料**で受けられる問診票が送付されます。

詳しくは 館山市役所健康課予防係 23-3113 まで

